

計画の名称	県立美術館の開館を契機としたパークスクエア地区の賑わいと活気あふれるランドスケープの形成計画													
計画の期間	令和06年度 ~ 令和06年度 (1年間)								重点配分対象の該当					
交付対象	倉吉市													
計画の目標	パークスクエア地区は、倉吉市の中心市街地に位置し、倉吉未来中心（文化ホール）、倉吉市立図書館、交流プラザ、二十世紀梨記念館、温水プール、食彩館（飲食施設）などの文化・商業施設が集積する地区で、令和7年3月には鳥取県立美術館が開館する予定であるが、これを契機として来訪者を増やし、パークスクエア内を周遊させ、新たな賑わいを創出することが求められている。このため、美術館から既存施設に周遊させる端緒となる美術館西側のエリアに多目的広場の機能を持つ倉吉パークスクエア集いの森（仮称）を整備することにより、図書館や商業施設等との周遊性を高め、賑わいと活気あふれる地域環境の形成を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		386	A	386	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		令和6年度当初	令和8年度末	令和10年度末
1	倉吉市立図書館の年間来館者数 倉吉市立図書館の4月から翌年3月までの年間来館者数	162815人	170000人	175000人
2	中心市街地における観光入込客数 中心市街地内の6施設の観光入込客数	226356人	421400人	500000人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																															
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況												
												R06	R07	R08	R09	R10															
一体的に実施することにより期待される効果																															
備考																															
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	倉吉市	直接	倉吉市	-	-	県立美術館の開館を契機としたパークスクエア地区の賑わいと活気あふれるランドスケープの形成事業	令和7年3月に開館する美術館を契機にパークスクエア内を周遊させるため倉吉パークスクエア集いの森(仮称)を整備する	倉吉市							386		-											
																						小計							386		
																						合計								386	

事前評価チェックシート

計画の名称： 県立美術館の開館を契機としたパークスクエア地区の賑わいと活気あふれるランドスケープの形成計画

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 倉吉市中心市街地活性化基本計画との整合等 1) 倉吉市中心市街地活性化基本計画と整合性が確保されている	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえて計画の目標が設定されている	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) 地域から求められている公益施設の計画である	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 3) 中心市街地活性化の観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 整備計画の目標と事業内容の整合性等 1) 整備計画の目標と定量的指標の整合性が確保されている	○
II. 計画の効果・効率性 整備計画の目標と事業内容の整合性等 2) 定量的指標と事業内容の整合性が確保されている	○
II. 計画の効果・効率性 整備計画の目標と事業内容の整合性等 3) 定量的指標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている	○
II. 計画の効果・効率性 定量的指標の明瞭性 1) 定量的指標が地域住民にとってわかりやすいものとなっている	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 3) 計画について住民等との間で合意が形成されている	○
III. 計画の実現可能性 地元の機運 1) 計画の実現に向けた機運がある	○
III. 計画の実現可能性 地元の機運 2) 住民の意見を踏まえながら計画を策定している	○